

心をひとつに 伸びゆく森本



森本区だよりを紹介します
ここをクリックして下さい

山陰近畿自動車道大宮森本インター（仮称）平成28年11月開通予定

当区は、小野小町の里（五十河）に近い山あいの農村地域。平成28年11月に開通予定の野田川大宮道路の森本インターと長さ約900mの高架道路の建設が着々と進んでいます。開通すれば、京阪神へのアクセスが格段に良くなります。また、農地は大型区画のほ場整備が完成し、耕作放棄地の増加や作業の効率化、後継者不足を案じて紆余曲折（うよきよくせつ）を経て農家の心がひとつになったもの。農地の管理は、大部分を同時期に設立された地域住民共同出資の「京丹後森本アグリ株式会社」が受け持ちます。高齢化が進むなか地域を守り農地を守る組織が出来たのは大きな強みです。

村づくり委員会や公民館などの元気づくり活動も活発で、将来を見据えてみんなが楽しく生き生きと暮らせる村づくりを進めています。

人口 平成27年11月 200人

ふるさと大宮町森本

着々と進む大宮森本インター（仮称）建設



平成26年6月



平成27年11月



住民出資の(株)アグリが今年も
田植えが無事終了。
秋にはたくさんの実りを迎えました。



赤米の手植え・手刈り体験

「豊かな自然の恵みに感謝」をキャッチフレーズに三重森本里力再生協議会を中心に実施しています。

平成 27 年 5 月 30 日(日)赤米の手植えをしました。



平成 27 年 10 月 24 日(土) 黄金色に実った穂を手刈りしました。この日は「小町コン (※)」の参加者も手刈り体験作業です。



(※)小町コンとは、平成 27 年 10 月に当地域で初めて開催した婚活事業のことです



◆おおみや生き生きフェスタ

平成 27 年 11 月 1 日(日)

大宮町各地区・団体から 22 店舗、フリーマーケット 4 団体が出店しました。森本区からは森本村づくり委員会と森女の会が「餅・おでん・おにぎり・ぜんざい」を出店し完売しました。当日は天候にも恵まれ、およそ 3,500 人の来場者で賑やかな一日となりました。



森本村づくり委員会は元気

魅力ある地域にしようと平成 8 年に設立された森本村づくり委員会は元気な活動を続けています。

子どもたちも参加しての田んぼの生き物調査やミクリ（多年生の草本）の移し替え作業など。また竹野川堤防の花壇整備や草刈り作業などの美しい村づくり活動にも力を入れています。

女性グループも元気

女性グループ「森女の会（もりめのかい）」も元気。花壇整備やゴキブリ団子、料理講習会など。「女性の力で地域づくり」が合言葉



▲女性グループ「森女の会」による花壇整備

「森女の会」（18 名）、「福祉の会」（13 名）
道路を走るドライバーが気持ち良いように
と、集落はずれに植えた花壇周辺を除草作業。
美しい森本をアピール。



▲「福祉の会」による花壇整備



▲大屋神社 本殿は江戸時代後期のものです。
境内は、いつもきれいに保たれています。



▲興勝寺（臨済宗）
無住寺だが掃除は行き届いています

森本の歴史と文化財

「森本」という地名は、江戸時代にさかのぼります。

当区では、松山遺跡や沖田遺跡において縄文時代から生活をしていた痕跡がみられます。戦国時代にこの地を治めていた成吉（大江）越中守は、宮津市文殊堂境内にある等身大地蔵の銘によると応永34年（1427年）に千体の地蔵を造ったと伝えています。そのうちの2体が左坂（ささか）の地蔵、（写真右）右坂（うさか）の地蔵（写真右）といわれています。

寺は、興勝寺（写真左）があり、この寺では、天正2（1574）年銘のある成吉（大江）越中守の位牌を所蔵しています。また神社は、大屋神社（写真左）・秋葉神社・愛宕神社・大杉神社・稲荷神社があります。大屋神社の本殿は江戸時代後期のものです。また、稲荷神社には、数種類の色の花をつける五色椿があります。（市教委資料）



▲右坂の地蔵

森本から縦貫林道に通ずる道路を右坂といい、この地蔵は右坂を上った縦貫林道付近にあります。



▲左坂の地蔵

この地蔵は、森本から周枳にぬける道路のトンネル（ささかずいどう）手前右手にあります。